

Press Release

報道関係者各位



〒107-6011 東京都港区赤坂1-12-32-11F
 TEL:03-5545-3303 FAX:03-5545-3305
 ホームページ <http://www.ssf.or.jp>

笹川スポーツ財団「スポーツボランティアに関する実態調査」

東京オリンピック・パラリンピックの ボランティアに最も意欲的なのは「20歳代女性」

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する公益財団法人笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区赤坂 理事長：小野清子）は、2014年3月20～27日にかけて、「スポーツボランティアに関する実態調査」（インターネット調査）を行いました。この調査は、成人のスポーツボランティアの実施状況とニーズ、その他の社会参加活動との関連といった基礎データの収集を目的としたもので、全国20～80代の男女から回答を得ました。

【主な調査結果】

■2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会へのボランティア参加希望者の特徴

1. 過去1年間にスポーツボランティアを実施した者（実施者）の6割以上が参加を希望。
2. 実施しなかった者（非実施者）でも4人に1人（約25%）が参加を希望。
3. 実施者・非実施者ともに参加希望者の割合は「20歳代女性」が最も高い。
4. 実施者の中で、関東在住者の参加希望が7割以上と最も高いが、地方在住者でも平均6割以上が参加を希望しており、全国的に関心の高さが確認できた。

【担当者コメント】

2012年ロンドン大会では7万人のボランティアが活動し、そのうち実に8割がボランティア経験者であった。今回の調査では、過去1年間にスポーツボランティアを実施した者の2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、2020年大会）へのボランティア参加希望は66.1%。そのうち「ぜひ行きたい」は22.1%、「できれば行きたい」が44.0%であり、『希望はするが、強く希望しているわけではない』人が全体の4割超となった。

2020年大会のボランティア募集までに、参加を強く希望する者を増やすための施策が必要と考える。大会への興味・関心を高めることはもちろん、本調査で明らかになった活動の障壁になっている事象（休暇が取りづらい、ボランティアに関する情報が得られにくいなど）を、取り除くための策を講じる必要があるだろう。 【笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 研究員 高橋 光】

■調査概要

- 調査名：スポーツボランティアに関する実態調査
- 調査時期：2014年3月20～27日
- 調査対象：1. 母集団：全国の20～80歳代男女（予備調査サンプル数：61,669人）
2. 本調査対象サンプル数：6,000人（実施者3,000人、非実施者3,000人）
- 調査方法：インターネット調査
- 調査内容：スポーツボランティアの実施状況、実施希望（一般のボランティア、2020大会）など

■本調査の特徴

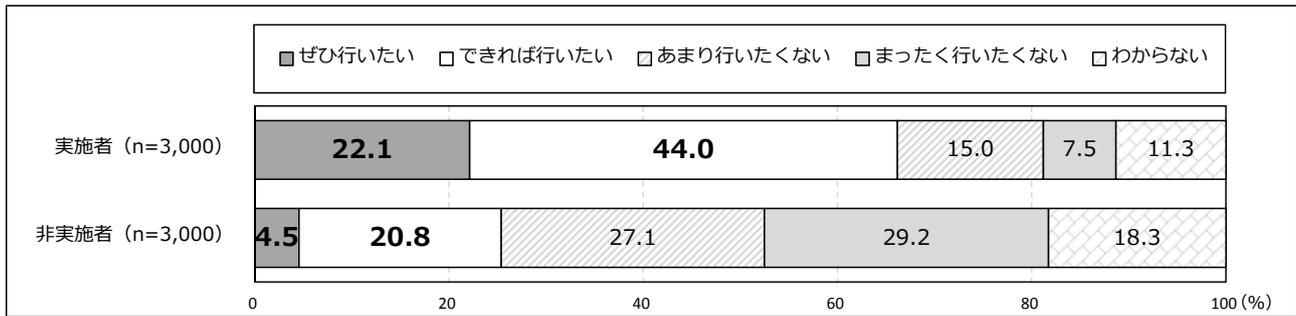
1. 過去1年間の成人のスポーツボランティア実施状況について、実施者と非実施者を性別と年代を考慮したサンプリングで抽出し、実態の詳細把握を可能とした
2. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会へのボランティア参加意向を調査

■調査結果

(1) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会へのボランティア参加意向

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、2020年大会）へのボランティア参加意向について5つの回答選択肢を用いたアンケート結果、過去1年間にスポーツボランティアを実施した者（以下、実施者）は「行きたい」（「ぜひ行きたい」22.1%+「できれば行きたい」44.0%）と回答した者（以下、参加希望者）の割合が66.1%であった。

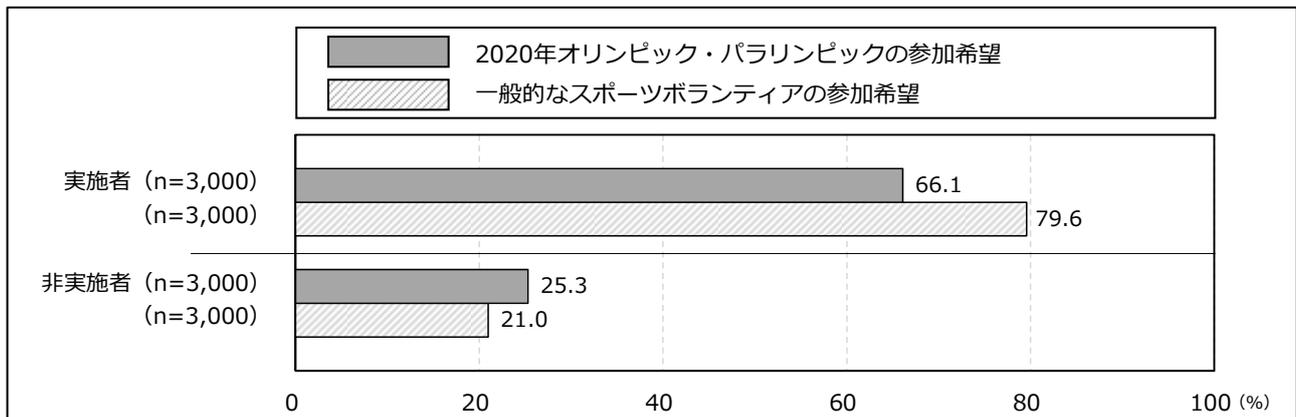
一方、過去1年間にスポーツボランティアを実施しなかった者（以下、非実施者）のボランティア参加希望者の割合は25.3%（「ぜひ行きたい」4.5%+「できれば行きたい」20.8%）で、非実施者の4人に1人が2020年大会へのボランティア参加を希望していることがわかった。



(2) 一般的なスポーツボランティアへの参加希望との比較

2020年大会へのボランティア参加希望と一般的なスポーツボランティア（指導や審判、イベントや団体の運営や世話など）の参加希望を実施状況別に比較した。その結果、実施者では、2020年大会への参加希望者の割合が66.1%と一般的なスポーツボランティア（79.6%）より13.5ポイント低かった。

一方、非実施者では、2020年大会への参加希望者の割合が25.3%と一般的なスポーツボランティア（21.0%）より4.3ポイント高く、実施者と非実施者で異なる特徴がみられた。



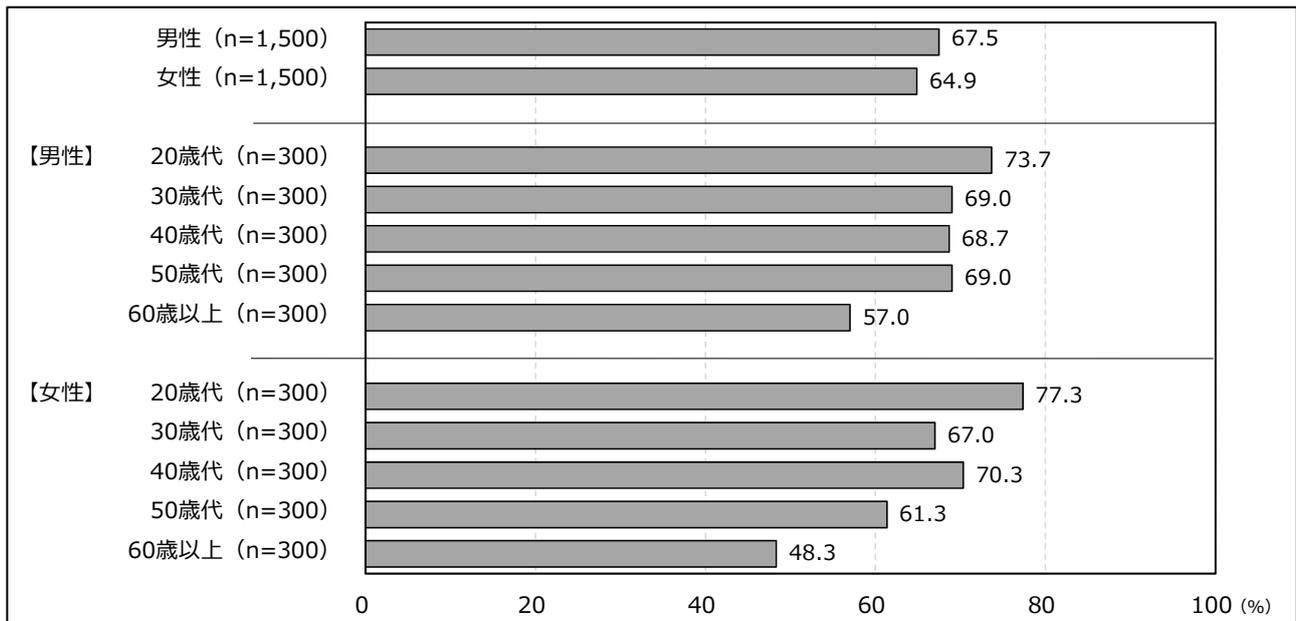
注) 参加希望は「ぜひ行きたい」と「できれば行きたい」の回答を加算した割合。

(3) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会へのボランティア参加希望(性別・年代別)

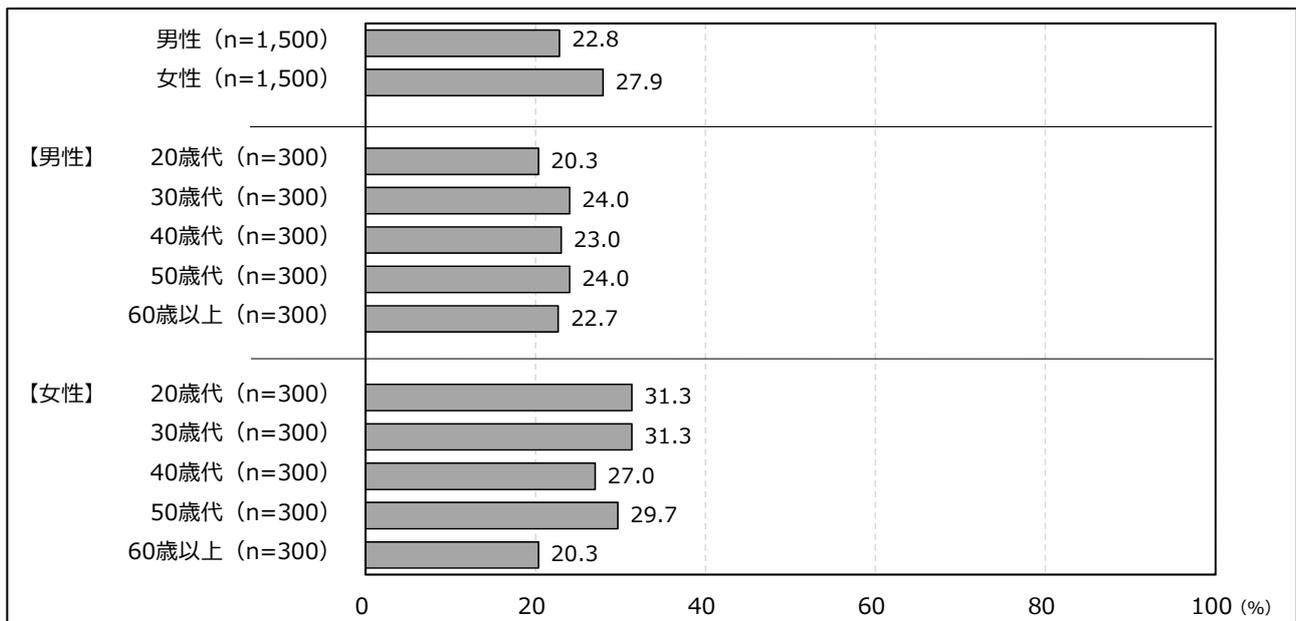
2020年大会へのボランティア参加希望者について、実施状況別に性別で見ると、実施者では、男性の希望する割合が67.5%と女性(64.9%)より2.6ポイント高かった。一方、非実施者では、女性の希望する割合が27.9%と男性(22.8%)より5.1ポイント高かった。

性別・年代別にみると、実施者では20歳代女性の希望する割合が77.3%と最も高く、次いで20歳代男性(73.7%)、40歳代女性(70.3%)と続いた。一方、非実施者は20歳代女性、30歳代女性の希望する割合が31.3%と最も高く、次いで50歳代女性(29.7%)であった。現在、スポーツボランティアを実施している、していないに関わらず、20歳代女性の2020年大会へのボランティア参加希望が高いことがわかった。

【実施者】(n=3,000)



【非実施者】(n=3,000)



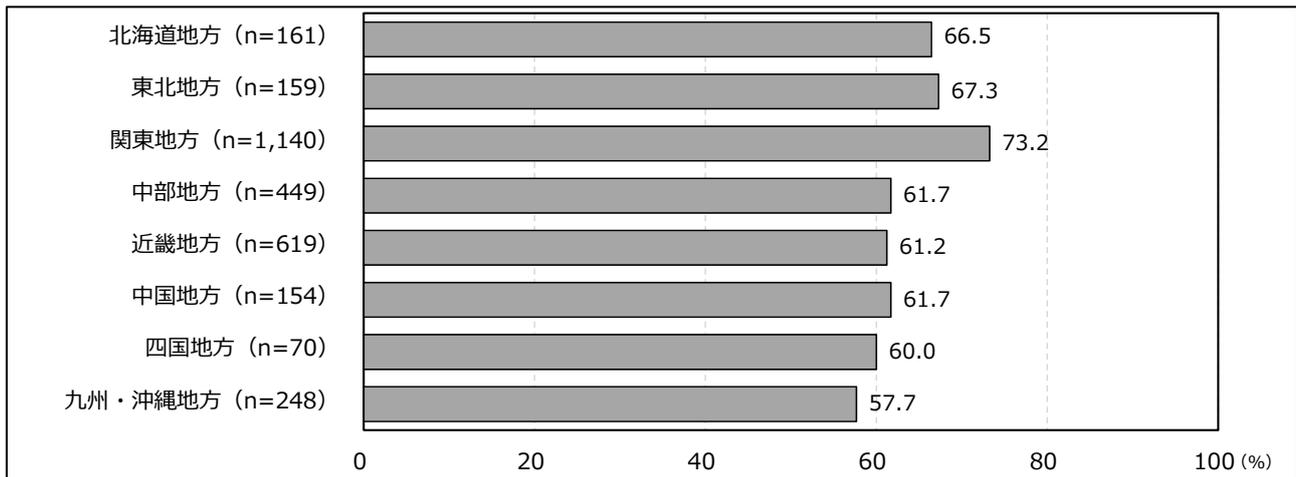
注) 参加希望は「ぜひ行きたい」と「できれば行きたい」の回答を加算した割合。

(4) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会へのボランティア参加希望(居住地域別)

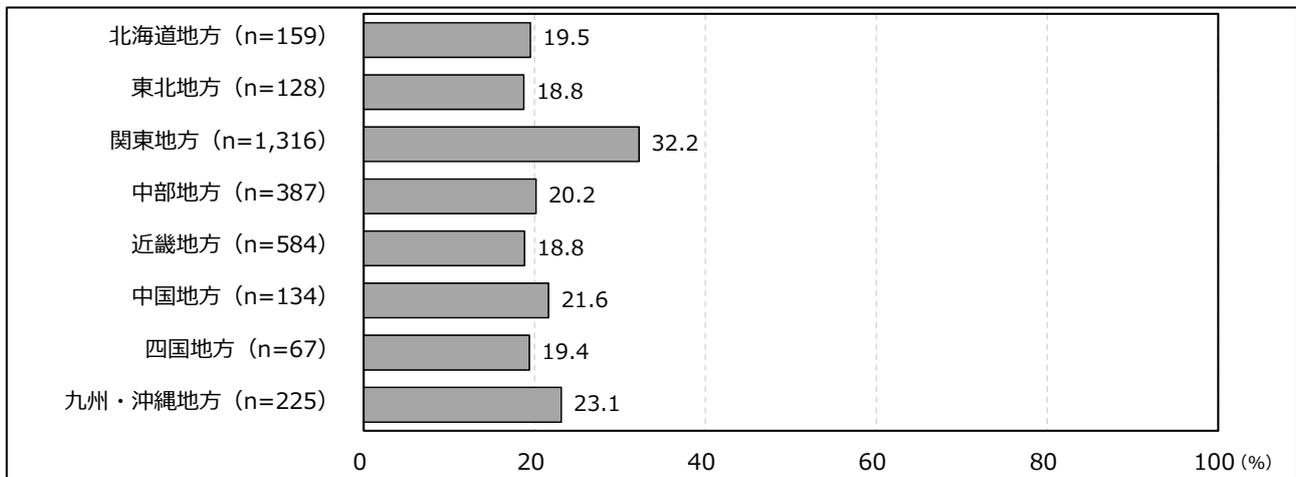
居住地域別に2020年大会へのボランティア参加希望者の割合をみると、実施者では関東地方が73.2%と最も高く、次いで東北地方(67.3%)、北海道地方(66.5%)と続いた。2020年のオリンピック・パラリンピックは東京開催のため、関東地方の参加希望者が多いことは容易に想像できるが、他の地方でも平均で6割以上の者が参加希望を示していることがわかった。

一方、非実施者でみると、関東地方の参加希望者の割合は32.2%であり、現在、関東に在住でスポーツに関するボランティア活動をしていない者でも、3人に1人が2020年大会へのボランティア参加を希望していることがわかった。

【実施者】(n=3,000)



【非実施者】(n=3,000)



注) 参加希望は「ぜひ行きたい」と「できれば行きたい」の回答を加算した割合。

この件に関するお問合せ先
笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所:工藤・高橋
TEL:03-5545-3303 info@ssf.or.jp



すべての人にスポーツの楽しさを
笹川スポーツ財団(SSF)は“スポーツ・フォー・エブリワン”を推進している公益財団法人です。
当財団は、ポートルースの交付金による日本財団の助成を受けて活動しています。

